

サルビア

第24号

平成30年5月1日発行

岐阜市民病院 代表電話 (058) 251-1101
 地域連携部 電話 (058) 253-0890
 FAX (058) 255-0504

renkei@gmhosp.gifu.gifu.jp



理念 心にひびく医療の実践

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、心温まる医療を行います。
1. 安全で信頼されるチーム医療を行います。
1. 地域の医療機関と連携し、患者さん中心の継続した医療を行います。
1. 地域の中核病院として、最新かつ高度な医療を提供できるよう努めます。
1. 職員が生き生きと働くことができる環境づくりに努めます。
1. 病院の理念を理解し、専門性を持った人材を育成します。



ごあいさつ

院長
 富田 栄一

人口の高齢化が進展する中、人生100年時代を見据え、どこに住んでいても適切な医療・介護を安心して受けられる社会の実現（地域包括ケアシステムの構築）に向け、国や自治体において医療・介護・福祉の多方面から様々な検討が進められておりますが、団塊の世代の方々全員75歳以上となる2025年（平成37年）に向けた大きな節目となる「平成30年度診療報酬改定」が本年4月から施行されました。

この度の改定は、6年に1度となる診療報酬と介護報酬の同時改定であり、地域包括ケアシステムを念頭に、「医療機能の分化・強化、連携」に加え、「医療と介護の役割分担と連携」をより重視した内容となっております。その一つとして、診療報酬改定には、入院する前から退院後の生活を支援する取り組みに対する評価が新たに創設されました。また、介護報酬改定においても、ケアマネージャー等が医療機関の退院支援会議に参加するなど積極的に連携することで、報酬上より高い評価が得られるようになりました。これらの取り組みにより、入院が決まった時点で、専門のスタッフが退院支援に関わることで、患者さん本人やご家族が安心して入院生活を送ることができるとともに、退院後の在宅医療や介護サービスの提供を円滑にし、医療と介

護の切れ目のない支援を可能とします。当院においても、こうした支援の重要性を鑑み、従来の退院支援機能を拡充させた「入退院支援センター」の開設に向けて昨年準備を進めてきました。このセンターの運営にあたりましては、設置の趣旨をご理解いただき、在宅医療を担う諸先生方のご協力を賜りますようお願いいたします。

またこの度、地域包括ケアシステムの中心的な役割を担う諸先生方と当院との連携強化を目的に、「時間外緊急患者専用ダイヤル」を設置し、平日時間外および休日にも電話でのご連絡に対応させていただくことといたしました。通常診療時間外であっても、緊急で二次医療機関での受診が必要な患者さんに、迅速に対応させていただく所存ですので、是非ご活用いただきますようお願いいたします。

一方で、高齢社会の進展に伴い、悪性腫瘍をはじめ、脳卒中・心筋梗塞など、重症で緊急性が高い疾患も増えており、当院においても救急患者の受け入れや重症患者管理の更なる充実が重要となっております。また、高齢になるほど、一つの病気だけでなく、高血圧や糖尿病など、複数の病気をかかえている方が多くなっています。このような高齢化による医療需要の増大は、今後も更に顕著となることが予想されることから、医療機能の分化・強化、連携の推進により、状態に応じた適切な医療を効果的・効率的に提供し、在宅や介護に繋げていくことが、各医療機関に求められています。

こうした中、急性期病院として、緊急かつ高度な医療を提供する体制を更に充実すべく、今年度、湊口信也先生をお迎えして、新たに「心不全センター」を開設いたしました。心不全をはじめとする心疾患の診断・治療において当センターをご活用いただければ幸甚に存じます。

このように、地域包括ケアシステムの構築に向け、医療機能の分化・連携がますます重要となる中、今後も近隣医療機関の諸先生方のご支援をいただきながら地域医療の充実と発展に努めて参る所存ですので、変わらぬご指導とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

部門のご紹介

- ◆災害救急医療センター
 上田 宣夫
- ◆がんセンター
 澤 祥幸

災害救急医療センター



災害救急医療センター長
上田 宣夫

当院は高度急性期を担う地域の中核病院として、平成 23 年 10 月 26 日に、岐阜県から地域災害医療センターの指定を受けました。このため、平成 24 年災害救急医療センターを設立し、その下部組織として、災害医療部、救急診療部、集中治療部を組織いたしました。また、新たに重症患者管理病床として、災害救急医療センターのもと、HCU(High Care Unit)も8床造設し、重症患者管理をよりいっそう充実したものにいたしました。

そこで、今回は、当院の災害救急医療センターにおける、災害医療部、救急診療部、集中治療部、新たに開設されたHCUに関してご紹介させていただきます。

<災害医療部>

「地域災害医療センター」は、平成 7 年 1 月 17 日発生した阪神・淡路大震災を受けて、平成 8 年に全国に創設されました。さらに平成 23 年 3 月 11 日に発生したいわゆる「3.11 東日本大震災」各地域での地域災害医療センターの増設と機能強化が図られることになり、当院でも平成 23 年 10 月 26 日に地域災害医療センターの指定を受けました。この指定に応えるべく、当院では平成 24 年に災害救急医療センターを併設して、その下部組織として災害医療部を併設いたしました。災害医療部の主な業務は、1) 災害に備えた災害マニュアルと病院事業計画の作成、2) 災害時における備品、資機材、食料の準備調達、3) 災害訓練の立案実施、4) 実際の災害時におけるDMAT(Disaster Medical Assistance Team)の出動などです。災害時に必要な備品は常に災害倉庫に準備され、また、DMATが直ちに災害現場へ出動できるように準備もしています。実際に平成 28 年 4 月

14 日に発生した熊本大地震では当院DMATが現地へ赴き、災害対策本部にて災害対応を行ってまいりました。また、災害マニュアルは平成 24 年に完成し、病院事業継続計画も本年 3 月に策定いたしました。さらに毎年 2 回、10 月と 3 月には大災害を想定した災害訓練も行い、常に災害発生時に適切に対応できるように日々努力を致しております。



DMAT 出動用品



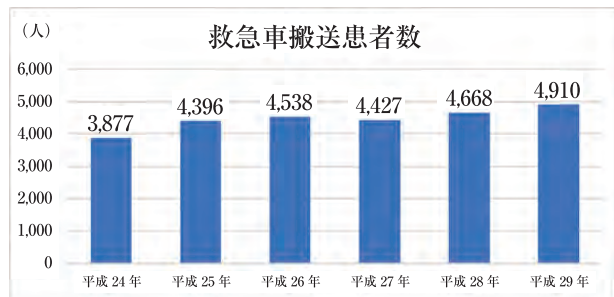
熊本地震における本部活動



災害訓練の様子

<救急診療部>

当院での救急診療の開始は昭和49年にさかのぼり、その後平成15年に救急診療部として救急患者診療を始めましたが、発足当時は各診療科が救急患者対応を行っていました。しかし、平成24年4月岐阜大学救急災害医療講座からの応援も得て、通常勤務時間内の救急患者の診療は救急専門医が行えるようになりました。その結果、救急車搬送台数は年々増加し続け、昨年平成29年には約4900台と5000台にせまる勢いとなっています。また、救急患者初療後は、各診療科だけではなく、重症患者管理病棟である集中治療部との連携を密にして救急患者対応を行っております。さらに、平成28年からは集中治療部と共に、HCUとの連携が始まり、重症患者の初療から根本治療まで一貫した診療が行えるようになりました。また、今年からは、重症患者の救命率をあげるべく、消化管出血にてショック状態の患者の根本治療である消化管内視鏡治療を、救急初療室内で行えるように改築も行っております。本格稼働は本年5月から開始予定となっております。



年々増加する救急車搬送患者

<集中治療部>

当院の集中治療部は数少ない日本集中治療医学会専門医研修認定施設であり、2名の集中治療専門医が従事しています。病床数は6床で、心臓大血管術後、食道腫瘍術後、肝胆膵腫瘍術後など大手術後の患者の管理、心筋梗塞、脳卒中、敗血症など重症救急患者の全身管理を積極的に行っています。主治医、集中治療医は、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、臨床工学士などの多職種スタッフと協力して、24時間体制で重症患者の治療に当たっています。看護体制は2:1を維持しつつ、心電図や経皮的酸素飽和度、持続血圧計などのモニタリングをし、人工呼吸器、血液浄化装置、補助循環装置など生命補助装置をも使用した高度な医療を集中的に行っています。

<HCU>

HCUとは High Care Unit の略語で「集中治療室と一般病棟の間に位置する病棟で、集中治療室よりもやや重症度の低い患者を受け入れる治療病床」です。当院では、平成28年2月から8床で稼働し、大手術後、心不全、内分泌異常、脳卒中などの重症患者を集中治療室に準じて治療しています。看護体制は4:1であり、主治医を始めとした多職種のスタッフで治療に当たっており、透析などの血液浄化、人工呼吸管理も必要に応じて行うことができます。HCUの稼働により、当院では、更に充実した重症患者管理を行うことができるようになりました。

このように、当院は、通常の日常診療では災害・救急医療センターに属する救急診療部、集中治療部、HCUにて重症患者管理を行い、災害発生時では災害医療部を中心として救急診療部、集中治療部、HCUをも含めた高度急性期医療を行っています。今後も、地域における高度急性期病院としての十分な機能を、災害・救急医療センターを中心に行っていく所存ですので、何卒、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



十分な治療スペースを確保したHCU

診療局 がんセンター



澤 祥幸

がんは2人に1人が、り患する病気となり、かつ医学の進歩による包括的な治療と高齢化に伴う全人的ケアが必要な時代になっています。岐阜市民病院では、がん診療地域連携拠点病院として、臓器の枠にとらわれない横断的診療を行うためにがんセンターを設置しています。構成は、病院長の指揮のもと、内科診療局や外科診療局と同様、診療局長を中心にがん患者さんへの最適な医療サービスの提供のため、①外来化学療法センター、②緩和ケアセンター、③がん相談・就労支援室、④がん統括診療部、⑤がん登録室、⑥がんセンターボード、⑦レジメン登録委員会等、診療部門と運営部門からなっています。



外来化学療法センタースタッフ

1. 外来化学療法センターは、西診療棟3階のがんフロアで日当たりと見晴らしのよい明るい場所で、リクライニングチェアとベッドを併せて20床備え、ゆったりとした環境でがん薬物治療を受けていただけます。また、当院では日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医が6名在籍し、臓器を超えた化学療法ケアを行っています。最近はおブジーボやキイトルーダなど免疫チェックポイント阻害薬による治療患者も増え、事前にがん専門医ががんセンターボードで主治医

と確認して適応を判断しています。

- 緩和ケアセンターは、杉山保幸副院長、石黒崇緩和ケアセンター長を中心に緩和ケアを実施しています。厚労省の提言する「診断時からの緩和ケア」を実践するために、各診療科と連携し、手術・化学療法・放射線治療と並行して疼痛緩和を行うほか、地域のホスピスや在宅医療クリニックと連携会議を開き円滑なケアを提供できるよう心がけています。当院は専門医のほかがん緩和専門看護師、がん性疼痛認定看護師が在籍し、患者さんの家族の相談やケアにあたっています。
- がん相談・就労支援室では、専任の相談員を配置し、がん治療を受ける際に生じる様々な困りごとに対して相談を承っています。治療経過や、通院する病院の相談、医療費や助成など経済的な問題、がんになってからの仕事の両立など、就労・就学のご相談が多く、毎年1000件以上のご相談を承っています。
- がん統括診療部では、個々の診療科で診断されたがんが、多臓器に転移があった場合や、原発不明癌など診療科が複数にわたる際に、患者に適切な治療ができるよう、治療の順番や併用の可能性など調整します。具体的には、担当医から申し出があった場合にがんセンターボードを招集し多職種の専門家の知恵を絞って患者と家族に適切な「解決」を提供するよう心がけています。がんセンターボードは月例の定期開催のほか、主治医や看護スタッフ、患者から要望があった際には随時開催しています。当院の特徴は、関係する臓器担当医のほか、病理医、放射線読影医、緩和ケア医、薬物療法専門医、放射線治療医、ソーシャルワーカー、専門看護師・認定看護師、がん専門薬剤師などあらゆる職種が参加して意見を出し合うことです。これにより、必ず何らかの解決策を提示できるようにしています。



がんセンターボードの様子

5. 岐阜市民病院では、地域社会に密接した公立病院として、がんにかかわる社会活動にも取り組んでいます。就労支援に関しては、国立がん研究センターを中心とした就労支援の助成金研究班の班員として活動するほか、社会保険労務士やハローワークによる就労相談会を定期的に開催しています。また、がんセミナーやがん市民公開講座を開催し、その都度時勢にあったトピックスを話題として情報提供を行っています。当院はまた、小児悪性腫瘍の化学療法を中心とした治療にも積極的に取り組んでおり、入院中の幼児・児童・生徒への慰問活動も盛んです。特に七夕やクリスマスのイベント、がんを体験したプロフットサル選手によるボールを通したスポーツ交流慰問(フットサルリボン活動)、地元大学生による小児病棟壁絵塗り行事は入院中の子供たちに好評です。

地域の病院、クリニックの先生方には、今まで通り、臓器別の診療科にご紹介いただけましたら、必要に応じて担当医が、がんセンターの診療部門に依頼する体制となっていますので、地域連携部を通してご紹介いただけましたら幸いです。なお、多発リンパ節腫大など、診療科がわからない場合は、悪性リンパ腫など想定される場合は血液・腫瘍内科にご紹介ください。血液腫瘍にも固形癌治療にも造詣のあるがん薬物療法専門医が対応し各科と連携をとっています。

市民公開講座の様子



お知らせ

時間外に緊急を要する患者さんのご紹介を頂く場合、専用ダイヤルを設置いたしました。

058-215-5599

平日の8:30~17:00までは、代表電話 **058-251-1101**にて、これまでと同様に対応いたします。

診察や検査のご予約については、**地域連携部**にご連絡下さい。

平日 8:30~19:15

土曜日 9:00~13:00(祝日を除く)

地域連携部 直通電話 **058-253-0890**

F A X **058-255-0504**

岐阜市民病院診療科別週間予定表 (平成30年4月)

		月	火	水	木	金
内科		(内線 2200) 外来受付 11:00まで				
第2内科 <small>(血液内科)</small>	1診	山下 (消化管)	西垣(洋) (肝)	西垣(洋) (肝)	向井 (胆膵)	林 (肝)
	2診	杉山(昭) (消化管)	加藤(則) (消化管)	小木曾(富) (消化管)	杉山(昭) (消化管)	加藤(則) (消化管)
	3診	杉山(智) (消化管)	鈴木 (消化管)	岩佐 (消化管)	奥野 (消化管)	市川 (消化管)
	4診	高橋(健) (血液)	柴田 (血液)	笠原○ (血液)	後藤(尚) (血液)	高橋(健) (血液)
	5診 午前 午後	中山	富田(栄) (肝)	内木■ (肝)	富田(栄) (肝)	森(初再診)☆ 山口(血液)
神経内科	6診 午前 午後	香村 (神経)	村上 (神経)	加藤(新) (神経)	田中(優) (神経)	香村 (神経)
	7診 午前 午後	富田(礼) (糖尿病)	森 (再診)	山田(浩) (糖尿病)	山田(浩) (糖尿病)	山田(浩) (糖尿病)
総合内科 <small>(糖内・膠原病・泌尿・内外科)</small>	8診 午前 午後	丸山 (糖尿病)	丸山 (糖尿病)	藤岡(初再診) (膠原病)	丸山 (糖尿病)	丸山 (糖尿病)
	9診 午前 午後	藤岡 (糖尿病)	石塚 (初再診)	石塚 (再診)	竹田(初再診) (糖尿病)	竹田 (初再診)
第1内科 <small>(腎臓内科)</small>	10診 午前 午後	操 (腎臓)	高橋(浩) (腎臓)	橋本 (腎臓)	高橋(浩) (腎臓)	木村 (腎臓)
	11診 午前 午後	西垣(和) (腎臓)	宮田 (腎臓)	西垣(和) (腎臓)	佐竹 (腎臓)	安田 (腎臓)
	12診 午前 午後	久保田 (腎臓)	馬場 (腎臓)	石原 (腎臓)	湊口 (腎臓)	村瀬 (腎臓)
	13診 午前 午後	小塩 (腎臓)	小塩 (腎臓)	小塩 (腎臓)	宮田 (腎臓)	小塩 (腎臓)

※ ベースメーカー外来 (月曜) 安田・佐竹・石原で交代 (金曜) 村瀬・宮田で交代
 ☆ 金曜日 (5診) 総合内科 △ 第5金曜日のみ 漢方外来
 ○ 水曜日 (4診) 午後 移植外来(第1週のみ) ■ 水曜日(5診) 臨床検査科外来
 ◎ 火・水・木曜日(6診) 午後もの忘れ外来(要紹介状・予約)

女性外来(水曜日午後) 第1週: 富田(礼) 第2・4週: 斎藤 第3週: 丸山
肝胆膵センター

		月	火	水	木	金
外科		(内線 2300) 外来受付 11:00まで				
初診	1診	杉山(智)/山下	西垣/佐々木	西垣/長田	向井/奥野	林/市川
	2診	土屋	杉江	佐々木		
	3診	櫻谷	長田	山田(誠)	永田	
再診	1診	松井(康)	上原	波頭	奥村	※
	4診	山田(誠)	佐々木	長田	松井(康)	奥村

※ 1週: 土屋 2週: 櫻谷 3週: 永田 4週: 杉江 5週: 上原
乳腺外科 (内線 2310) 外来受付 11:00まで(金曜日のみ10:30まで)

1診	中田	中田	中田	中田	中田
2診	細野	細野	細野	細野	細野

		月	火	水	木	金
整形外科		(内線 2500) 外来受付 11:00まで				
1診	大塚※	清水(克)★	大塚※	清水(克)★		
2診	白井●	大野☆	後藤	大野☆	後藤	
3診	山本◎	近藤◆	山本◎	白井●		
4診		宮本◆	宮本◆		近藤◆	

※ 人工関節センター ◎ 股関節専門外来 ● 膝・スポーツ外来
 ★ 脊椎センター ◆ 脊椎専門外来 ☆ 形成外来

		月	火	水	木	金
リハビリテーション科		(内線 3700) 外来受付 11:00まで				
診察	谷川	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木

		月	火	水	木	金
小児科		(内線 2600) 外来受付 11:00まで				
1診	午前	篠田	門井	横山	神田	篠田
	午後	山下	篠田	遠藤・神田(交互)	平手	金山
2診	午前	宮崎	平手	大城	金山	桑原
	午後	横山	大城	門井	桑原・宮崎②	1ヶ月検診②
カサヤシグループ	午前	心理		心理	心理	発達外来 大塚
	午後	心理	心理	心理	心理	育児相談(神田) 心理(渡口)
5診	午前		小児・思春期 ころの外来①	小児・思春期 ころの外来①		小児・思春期 ころの外来①
	午後				漢方外来 山下	

① 小児・思春期ころの外来 火・水曜日午前 山下、金曜日 遠藤
 ② 1ヶ月検診と金曜日午後外来 桑原・宮崎交互 木曜日午後は逆の交互

		月	火	水	木	金
産婦人科		(内線 2700) 外来受付 11:00まで				
午前	2 不妊・妊婦診	柴田	佐藤	尹	加藤	平工
	4 初再診	豊木	平工	加藤	佐藤	豊木
	7 手術診	山本※2	山本※3	山本※3	山本※2	山本※3

初再診: 要紹介状 手術診: 要紹介状・予約 ※2 13:00から ※3 9:30まで

		月	火	水	木	金
眼科		(内線 2800) 外来受付 11:00まで				
午前	1診	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋
	2診	川上	川上	川上	川上	川上
	3診	黒岩				高橋(俊)

		月	火	水	木	金
耳鼻咽喉科・頭頸部外科		(内線 2900) 外来受付 11:00まで				
午前	1診	小川	小川	手術	小川	手術
	2診	白戸(10時~)	白戸	手術	白戸(10時~)	手術
	3診	加藤	加藤	外来初診のみ	加藤	外来初診のみ
	4診	棚橋	棚橋		棚橋	
	5診	棚橋	棚橋		棚橋	

形成外来 第2・4木曜日 13:00~16:00 補聴器適合 隔週木曜日 午後
 小児中耳炎外来 第2火曜日 午後

		月	火	水	木	金
皮膚科		(内線 3000) 外来受付 11:00(月・木は10:30まで)				
午前	1診	水野	水野	水野	水野	水野
	2診	米田(和)	米田(和)	米田(和)	米田(和)	
	3診	福本	福本	福本	福本	福本

		月	火	水	木	金
泌尿器科		(内線 3100) 外来受付 11:00まで				
1診	午前	玉木	担当医		玉木	藤本
	午後	玉木△				藤本△
2診	午前	藤本	清家		担当医	清家
	午後	藤本△				清家△
3診	午前	米田(尚)				米田(尚)
	午後	米田(尚)△	米田(尚)△			米田(尚)△

△ 再診のみ ※ 水曜日は紹介初診のみ 手術にて担当医の変更あり

		月	火	水	木	金
呼吸器・腫瘍内科		(内線 3200) 外来受付 11:00まで				
2診	午前	吉田	澤☆	澤☆	石黒	吉田
	午後					
3診	午前	石黒	堀場	二村※	二村★	堀場
	午後					

★ 完全予約制 ※ 9:30~ ★ 8:30~11:00 ● 13:00~15:00
 ◎ がん治療のみ(完全予約制) ※1 11:00~初診のみ

		月	火	水	木	金
胸部・心臓血管外科		(内線 3200) 外来受付 11:00まで				
1診	胸部・心臓血管外科		東※3/荒川※4/村上※5	村上	東	村上
	胸部・心臓血管外科					村上※6
呼吸器外科(時間指定あり)		丸井※1	丸井※1	丸井※1	丸井※1※2	

※1 8:30~9:30 ※2 13:00~15:00 木曜日 村上※6 第1・3・5週 11:00~12:00
 火曜日 1診 東※3 9:30~11:30 荒川※4 11:30~12:30 村上※5 13:00~15:00

		月	火	水	木	金
精神科		(内線 3400) 外来受付 11:00まで				
1診	午前	小野	小野	渡邊		柴田
	午後	柴田	渡邊	本間	柴田	木股・小教△
3診	午前			田村	永瀬	田村
	午後				小教・木股△	田村
外来初診 ※		渡邊	田村	柴田	小教・木股△	小野

※ 初診は完全予約制 △ 隔週

		月	火	水	木	金
脳神経外科		(内線 2400) 外来受付 11:00まで				
午前	1診(初診)	谷川原	小谷	玉川	谷川原	野村
	2診	玉川	谷川原	小谷		

		月	火	水	木	金
歯科・口腔外科		(内線 3300) 外来受付 11:00まで(紹介状ありの場合16:00まで可)				
初診(午前)		小林※	兵東	小林	兵東	北村
再診(午前/午後)	午前	小林	兵東	小林	兵東	兵東
	午後	北村	小林	小林	小林	小林
	午後	兵東	北村	北村	北村	北村
インプラント外来		○	○	○	○	○
舌痛症外来		○	○	○	○	○
口腔ケア外来		○	○	○	○	○

※ 手術の都合により担当医の変更あり

		月	火	水	木	金
画像診断科		(内線 4100)				
外来	午前	川口/小島/寺町	川口/小島/寺町	川口/小島/寺町	川口/小島/寺町	川口/小島/寺町
	午後		川口/小島			
放射線治療科		(内線 4125)				
外来	午前			飯田/伊東	飯田/伊東	
	午後	飯田/伊東			(再診のみ)	飯田/伊東

地域連携部 電話番号 058-253-0890 FAX 058-255-0504
 休日・夜間の救急受診の場合
 時間外緊急患者用ダイヤル 058-215-5599